



発行所  
津市新町3丁目1-1  
津高等学校  
同窓会事務局  
0592-29-7331  
共立印刷株式会社

学校群制度廃止前進への課題 ..... 2

三峽下り ..... 3

後藤義之進先生の思い出 ..... 3

仲間 ..... 4

女性の社会参加に思う ..... 4

「らしからぬ」 ..... 5

津駅で思うこと ..... 5

宇宙開発と人類 ..... 6

まんが甲子園出場 ..... 6

百十五周年記念事業決る ..... 7

百十五周年記念事業決る ..... 7

進路室の窓から ..... 7

# 山とたみみと傳ふたち

同窓会長 辻 嘉一 (昭和10年卒)



歳が迫って参りましたが、  
会員の皆様には、清祥のごこと存  
じまふ。  
一年を振り返りますと、前半は  
政局は不安定ながらも平穩に推移  
して来ましたが、夏の記録的な猛  
暑つきで漏水、また台風等ま  
とに天災の多発した年であり、各  
方面に与えた影響は少なからな  
かっ



絵・「花薫る」 谷岡経津子さん (昭和36年卒)  
タイトル・書 千草 光洞氏 (昭和23年卒)

## ごあいさつ

学校長 井坂 剛



津高の伝統を受け継ぎ、その質  
の向上を図るとともに、何か、新  
しい息吹を吹き込めたいものかと、  
試行錯誤を繰り返しております。  
平成六年度からの新学習指導要  
領の完全実施、また、学校週五日  
制が平成七年度には、月二回に拡  
充される公算が極めて高くなるな  
ど、高校教育は大きく変わらな  
かざるかと、  
一つは情勢の中で、津高が普  
通科の伝統校として、今後、この  
よびに特色を發揮するべきである  
か、平成五年度末に委員会を発  
足させ、検討を重ねてまいりまし  
た。その過程において、国際コー  
ス、美術科の新設なども話題にな

あり、会場がはち切れそうな大盛  
会に終始いたしました。担当年次  
の方々の労を多とします。  
ご高承の通り明年は、母校創立  
百十五周年また、津高同窓会も  
陳川、三重校、津校の三者が合併  
スタートして三十五周年を迎え、  
同窓会として転換期に立たされた  
感がいたします。同窓会発展のた  
め、会員皆様のご助言をいただき  
たいと存じます。  
平成七年は野球部創部百年を迎  
えます。OB会を中心に、部史の  
編集を始め雨天練習場等設備の充  
実の記念事業を行うことになり  
目下寄付募金に奔走しております  
ので、よろしくご協賛の程お願い  
申し上げます。  
最後に会員皆様のご多幸をお祈  
りしまして、年末のご挨拶といた  
します。



感慨いくつか  
藤田 明 (昭和28年卒)

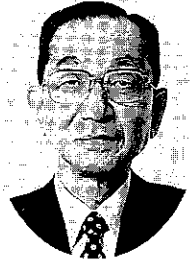
締めも迫って、何を書こうかと  
困っていたら、中学で上級生だっ  
たOさんに、何十年ぶりかど声を  
かけられ、手がはたはたになった。  
お父さんにいろいろお世話なう  
た言、Oさんはまず口にされたの  
だった。その真摯な温顔は昨今  
では稀ともいえ、かつて津中生徒  
のなかにはあった何かを感じず  
はいられなかったのである。  
敗戦の年の春、私たちは入学し  
た。私の場合は、集団疎開から東  
京へ戻り、東京大空襲のあと、母  
の郷里である津に疎開してきた直  
後に当たっていた。  
七月二十四日の爆撃で赤門町に  
あった家がほぼ全壊した。「焦跡  
へ手伝いに行き、その時の妹さん  
のことを覚えている。」と、この  
九月に開かれた津中六十七期同窓  
会でA君から聞かされた。同級生  
の家へ父の感書を読ませてもらっ  
たこともあって、いろんな方のお  
世話になったわけである。  
父は東京の仕事の関係で、津中  
への着任が遅れたが、私にとっては窮  
屈な思いが久居兵舎に移ってから  
も続いた。  
六十七期生は津中に入会したが  
卒業はしていない。昭和二十三年  
四月から共学の新制高校。翌年は  
小学区制で、私の場合は久居高東  
校舎へ。御殿場海岸に転居したの  
で、三学期から津高東校舎へ――  
転々としている。高校三年の夏、  
病に倒れたため、二十六年卒とは

津高の歴史をひもとくと、伊良  
子清白を先頭に文学者が輩出して  
いる。といつことに関心を持った  
のは、教師生活もある程度を経て  
からだ。百周年記念の『ああ  
母校』に記すことにつながるが、  
そのような事例は津高の教育の中  
ではどうなっているのだろうか。と  
いふより県内の高校で郷土の問題  
に積極的な取り組みは極めて少な  
い。が、おそろしく一般ではないか。  
私の場合、『三重・文学を歩く』  
(昭63・三重県良書出版会)まで  
いろいろ橋を架けてきたのはどう  
したかへの反省も理由の一つと  
してあった。  
(高田短期大卒)

# 学校群制度廃止 前進への課題 先輩に聞く

## 新入試制度への期待

岡村初博(昭和15年卒)



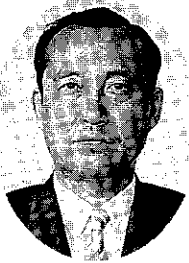
聞き取り、従来の自主、自律の校風の継承を目指していること決めたことは教育の真髓にもつながること高く評価したいと思えます。

しかしながら、現在の中勢地域における高校教育を取り巻く環境を考えると誠に厳しいものがあります。即ち保護者、生徒のよりよい大学への進学希望の増大、それに対応する私立高校の英才進学教育への努力、学習塾の乱立等々、さらに他高校との競争意識、これらを考えて決して安閑とはしておれない状況でなろうかと思われま

か。かつて我々が学んだ時代、即ち戦前には津中学校と言っても心の中には三重一中の誇りを持つ、その名語が名実ともに備わっていた

## 新しい津高に望む

横山和浩(昭和39年卒)

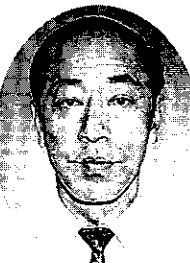


近年、偏差値を中心とした高学歴を目指す受験制度には、反省すべき問題点が多々ありますが、根本的には大学受験制度を改革しなければ、現実としてその難関を突破して勝者にならざるを得ません。四年制大学進学率は、全国では約三十%で、高校卒業者の三人に一人が進学する時代を迎え、進学競争の過熱化、大学の大都市集中など様々な問題が浮き彫りにされています。それにつれて、津高の有るべき姿も対応しなければならな

いでしょう。又、一方出生率の減少化により十五年後には十八才人口は四割減になるでしょう。来年度の高校入試から群制度は廃止され、津高単独入試となるの

## これからの津高のあり方、生き方

坂崎克也(昭和38年卒)

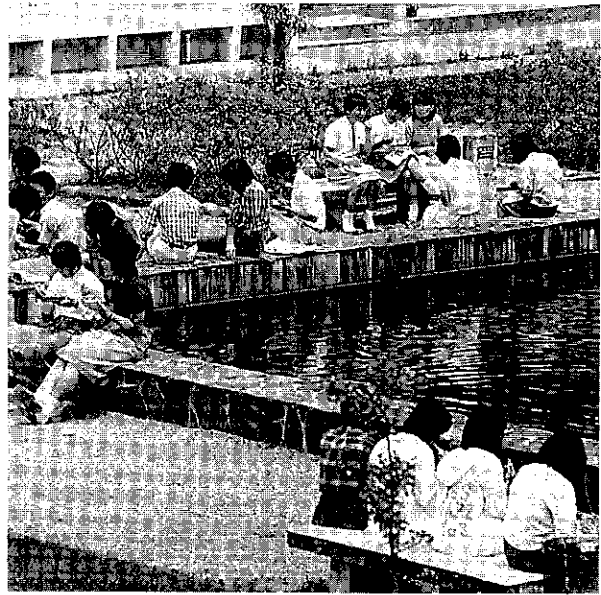


昭和三十八年に卒業してから、早いもので三十一年が過ぎました。津に在住している私達にとっては

何らかの形で先輩後輩達が活躍されている姿を見るとき、津高の卒業生として誇りに思う事がたくさんあります。津高は創立百十四年を経過し県内で最も歴史の古い高校であります。その百十四年の年輪がその時々青春を謳歌した卒業生にとって深く心に刻み込まれています。

しかし津高には、大きな変革の波が押し寄せています。一つには、受験制度の変化です。津高には国立、公立、私立大学から、指定校推薦がたくさんあります。又、一教科でも受験できる大学、学部も増えて来ておりますが、私立に於ける中高一貫教育が全国に広がっています。さらに進んで高

校から一歩踏み出す柔らかい頭の発想が必要ではないでしょうか。画一的な教育は確かに全体的なレベルアップには役立っていますが、それよりも創意工夫、自分自身の長所、得意分野を伸ばすことが必要ではないでしょうか。ゼネラリストからスペシャリストへの道、そして、個の発揮、価値観の多様化に対処できる柔軟な発想等、次代を担う青年に成長させるためには、家庭教育、社会教育、学校教育の三つが一体となって子供達を支えてこそ、初めて心身ともに立派な青年に成長するでしょう。我々OBとしては、学校環境の整備、社会教育の一環を支持することができたいでしょう。



二十年前続いた学校群制度が見直されて廃止され、特色ある高校づくりを目指す改正制度がいよいよ平成七年度から導入されることになりました。学校、生徒を始め保護者にとっては極めて大きな問題であり、また三重県の教育に大きな影響を与えることであろうと思われま

昨年一年間、PTA会長、又県高校P連副会長として各種の会合に出席し、各分野の方々との教育問題について語る機会がありました。県内各高校と比較すると、津高は非常に恵まれた教育環境にあると思えます。

高等学校教育は義務教育ではありませんが、現在では津義務教育の枠組みを呈しており、県内では年間約七百名もの生徒が中途退学しているのが現実です。

歴を指す受験制度には、反省すべき問題点が多々ありますが、根本的には大学受験制度を改革しなければ、現実としてその難関を突破して勝者にならざるを得ません。四年制大学進学率は、全国では約三十%で、高校卒業者の三人に一人が進学する時代を迎え、進学競争の過熱化、大学の大都市集中など様々な問題が浮き彫りにされています。それにつれて、津高の有るべき姿も対応しなければならな

長い伝統と高い学力レベルの進学校として甘んじておられ、津高の新しい未来に向けて変革する時、今一度津高を改めて見ると、伝統に培われた自由を重んじる建学の精神を發揮できれば、津高を特色のある学校にできると考えております。

管理的な教育よりも、多少の間と摩擦が発生しても、自由な校風の中で勉学することは将来を見据えた教育でしょうし、又、その様な教育方法は津高だからこそできる事でしょう。

先輩諸兄多教おられる中、津高生と同世代の子供を持つ父親の一人として述べさせていただきます。

三峡下り

江崎 誠 三（昭和13年卒）

朝早く重慶で乗った船は三ツト  
ン近い船であった。ツインの部屋  
には冷暖房、トイレ、シャワーが  
あり、思ったより良い部屋で家内  
と二人安心した。

「明朝、白帝城を通過するとき  
ナウンスします。」とのテレビ放  
送に安心し、いつしか眠りについ  
た。

翌朝五時、中国語英語でアナウ  
ンスがあったが、よくわからなかつ  
た。白帝城かなと思ひ、窓から見  
ると外は薄暗い。山が丘の上に城  
が見えないかと探したが、見当た  
らない。明け方のものの中に、旧  
跡のような建物が見えた。はてな

と考えている間に船は通りすぎて  
しまった。後で聞いたところによ  
り、諸葛孔明の白帝城であったら  
しい。残念。心残りだ。

孔明は、西紀二〇七年、二十七  
歳の時、「三顧の礼」で劉備に迎  
えられ、三国時代の覇権を争う戦  
いに身を投じた。「赤壁の戦い」  
後、重慶、昆明、成都を攻略して  
都とし西安近くまでの第五次北伐  
まで、二十七年間戦いに次ぐ戦い  
であった。地図の上でざっと五千  
キロはあるのでなかつた。西安  
湖北に出るにしても千キロ、三峡  
が物語る道なき道である。そのエ  
ネルギーはどこにあったのであ  
ろうか。



朝に辞す白帝彩雲の間  
千里の江陵一日にして還る  
兩岸の猿声啼いてやまざるに  
輕舟已に過く萬重の山  
孔明より約五百年後、李白は朝  
櫻の白帝城を後にし、小舟で瀟  
湘の三峽を二日に、春秋時代の楚  
の都江陵に帰ったらしい。

私達は李白と同じ様に小舟に乗  
り換え、三峽ならぬ揚子江の支流  
の奥深く、小山峽に遊んだ。し  
きを浴び、氣息をえんえんのエン  
ン。人手で後押しして急流を上る  
断崖に穴をあけ、杭を入れて、そ  
れに板を渡す棧道。いわゆる「蜀  
の棧道」の穴を見るのが出来た。  
かすかに見えるかどうかわからない  
高い絶壁に埋葬する懸棺の跡が見  
える。高ければ高い程、懸棺と  
そつである。棧道と言ひ、懸棺と  
言ひ、古代の中国人はどのよう  
にしたのであろうか。上を向いて  
首が痛くなる程感心させられる。  
デッキで五月の川風に吹かれて  
思いあぐねていたら、船の警笛に  
ひきもどされた。行き交う船は交  
互に警笛を鳴らし、安全を確認し  
合つた。その首は山峽にこだ  
まして大きい。船の往来も多く、  
正しく交通の動脈だ。

「陳川・津高陸上競技部有志の  
集い」 慰霊祭等を挙

服部 穂（昭和15年卒）



平成六年九月十七日、「陳川・  
津高陸上競技部有志の集い」を津  
市で開催しました。この会合は元  
同窓会会長故吉原一眞（昭和8年  
卒）さんの発意で、十五年ほど前  
に発足したもので、今年には特に物  
故者の慰霊祭を行ない、共に走り  
跳び、投げた故人を偲ぶことの意  
見がまとまりました。

の部長であられた故一見先生の遺  
族をはじめ、辻同窓会会長、三  
ツ村元部長、東京、大阪、京都、  
大垣等をはじめ各地から馳せ参じ  
られた人々三十九名の参加があり  
ました。上野恭一（昭和15年卒）  
さんが準備された資料や名札等を  
配るなど、久しぶりの雑談が交わ  
られました。

会場は乙部の上宮寺。津中時代

配布された資料は、明治神宮で

故 後藤義之進先生の思い出

北村 秀生（昭和7年卒）



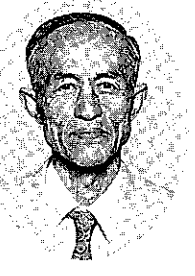
服装には一切頓着なく、ボサボ  
サの頭、それでいて颯爽として豪  
放磊落、常にニコニコと明朗  
授業は厳しく且つ充実したもので  
あった。

昭和五年、私の中学四年の時  
ある。何かの折に「わしはハー  
デーの研究をするんじや」と云われ  
たのをハッキリ覚えていた。  
当時の私はハーデーの何たるか  
を知らずただ聞いただけであつ  
たのだが、時が流れて昭和六十

在京の同期の者十人余りの会合の  
席に先生をお招きした際、先生よ  
りハーデー辞典完成のお話を伺っ  
た。  
ハーデーの詩、文はスラング、  
古語、特殊な習慣、古い地名等が  
多く、その為文章を真に理解する  
のが難しく、そこでハーデー辞典  
が必要となるのである。先生は七  
人の同志の方々と辞典の作製に当  
たられた。長い年月の間に研究の  
仲間もボツボツ亡くなり、遂に後  
藤先生一人となり、昭和五十九年  
辞典は完成したのである。  
五十年以上も一途にハーデーの  
研究、辞典の完成とは全く慣れ入  
った次第である。

わが青春

小泉 智英（昭和20年卒）



私達の中学時代は全く戦争に明  
け暮れる日々でした。軍隊、色  
の時代と言つてもよい程でした。然  
し中学四年生前半迄は、まだそれ  
なりに学校生活も楽しめました。

私達は、小学校の友人四名程で田舎  
の学校より始めて市内の中学校に  
入りましたので、何もかも目新し  
く、一年はまだまだ間に過ぎて  
まい、その時の成績も論無く無茶  
苦茶でした事を覚えて居ります。

平松和夫君が早逝されました。  
わたしにとつては、津中学・国學  
院を通じ、しかも同じ国語の教員  
として大の仲よりで、「へん」と  
呼ぶのが自然で、お許し下さい。  
津商業高校を退職後、経ヶ峰登  
山口にある「草生の天神さん」の  
宮司をしていただくが、早朝、  
神前に太鼓を奉納したままの姿勢  
で神に召されてゆきました。十月  
二十九日のことです。半月ほど前  
にわたしといっしょにいたのです  
が、心なしか、いま思えば元気が  
なかつたように思います。急なこ  
とで、葬儀の日をお伝えするの  
さへありませんでした。せんえつ  
でしたが、みなさんに代わり、お  
別れのことばを讀ませていただき

平松和夫君逝く

鈴木 茂（昭和20年卒）

私達の中学時代は全く戦争に明  
け暮れる日々でした。軍隊、色  
の時代と言つてもよい程でした。然  
し中学四年生前半迄は、まだそれ  
なりに学校生活も楽しめました。  
私は、小学校の友人四名程で田舎  
の学校より始めて市内の中学校に  
入りましたので、何もかも目新し  
く、一年はまだまだ間に過ぎて  
まい、その時の成績も論無く無茶  
苦茶でした事を覚えて居ります。  
今や母校も旧県立女学校と一緒  
になり、名称も校舎も全部変わつて  
いますが、学校の近くを通るたび  
に、懐かしさ、うれしさがこみあ  
げてきます。それは誰しも同じと思  
います。あれから五十年、この度原  
稿の依頼をうけ感無量です。戦時  
下の津市内、今でいうレストラン  
はわずか数軒しか覚えていません。  
喫茶店はカフェ、道路市は現在の  
ノ程度、津新町駅も全くみすぼ

に思ひます。戦時下でしたので当  
然でした。昭和十八、九年には先  
輩の大学生が学徒動員で少なから  
ず戦地に赴かれ、やがて私も軍  
需工場へ行かされるようになりま  
した。学問はそつちのけの状態に  
なりました。その頃になつて愈々  
英語は敵国のものでしてしまつ  
てきました。そつちう時代でした  
ので、軍事教練の先生は随分元氣  
があつたように思います。女学校  
の門前を通つても何かと注意を受  
けたものでした。ある時、友人が  
軍事教練のノートに相合傘のマー  
クに名前を書き、いたすらしたの  
を検査の時に見付けられ、教員室

終生一貫して、飾り気なものを  
背のびをせず、ありのままの人情  
家で卒業生たちにも同僚からも慕  
われていました。  
昔、雪中経ヶ峰登山というのが  
あり、彼は山から学校まで降りて  
きて、みんなをいっしょに頂上へ  
登り、帰りは家の前を素通りし  
て学校まで歩き、また自転車  
で学校まで歩きました。いまのよ  
うに自由解散などというものは思  
いもよらぬ時代でした。そんなこ  
とを私にもらしたときの彼の顔を  
思い出しています。

津中生、津高生にとつて、経ヶ  
峰はこゝろの山。平松君こそ、ふ  
るさとの山経ヶ峰の守り神です。

# 仲間



浅生 千代子 (昭和10年卒)

イメージがより本質に傾いているようである。

仲間とは、辞書によると一緒に行動を共にする人、同志、同類とある。世の人は意識せず自然に仲間を作るようである。昔の組とか講の類も同じで、社会は家族を単位とした小さい仲間が集って形成されている。

人生を楽しく快適にする為の仲間を本當の仲間と言いたい。近頃は仲間というよりグループと言う方がスマートで洒落ているけれど、従来の仲間という語から来る

それ以後、年忌に当たる年は仲間が集まりお寺の墓前に詣りて師を偲んでいる。五十回忌の今年の四月には常念寺に二十七名が集り法要を行なった。同期会、クラス会等の集まりが多くある中で、故人の冥福を祈りつつ集まるこの会は、他の会とは一味違つたように思う。その因は、バレーボールと言つてチームワークを優先する中で育つた仲間だからかと思つてい

夏休みの強化練習は忘れられない思い出である。午後の強い太陽の下で、先生の叱咤の声に励まされながら、コートを取扱ひまわつたものである。真黒に日焼けした顔で、休憩時にはわががちに水道の栓から口をすすり快さ……今のよ

## 心暖まる三重桜総会

佐々木 かよ (大正15年卒)

若葉黨の四月二十四日津都ホテル伊勢の間で開催。県内各地を始め東京、名古屋支那、北陸からも参加、会員一七九名、来賓として辻同窓会会長、井坂津高校長、富島副会長、恩師松岡先生、事務局

より阿比子先生に、臨席頂き盛大な集いとなった。

先ずなつかしい校歌斉唱、物故者への黙悼で母校時代を偲びつゝ、会は進行。会長より「本年は国際家族年、豊かになつて男女共学時代

の家庭作り、社会作りが努めよ。又母校が幼児教育センターに。更に祭りや国民文化祭の話があった後、来賓の方々から心暖まるお祝辞や同窓会の現況をお話頂いた。その後会食、和やかな話がはずみ明るい笑いが会場一ぱいにひろがって時のたつのが惜しまれた。

### 平成六年度役員幹事

- 名誉会長 今村 房
- 会長 佐々木 かよ
- 副会長 菊岡 静子
- 幹事 山路 隆子
- 幹事 中山 隆子
- 幹事 奥山 美登子
- 幹事 宮田 幸恵
- 幹事 谷 房子
- 幹事 黒宮 澄子
- 幹事 山田 郁子

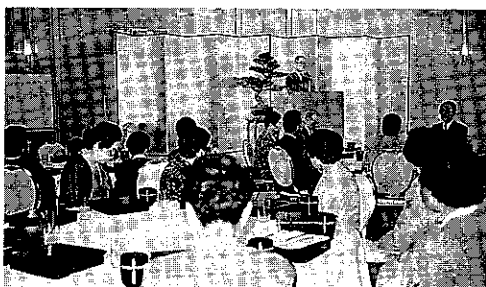
## 平成7年度 三重桜総会案内

とき / 平成七年四月九日(日) 十一時三十分より

ところ / 津都ホテル 伊勢の間 (三重会館前)

会費 / 五千円

備考 / 日程等詳細については後日年度幹事を通じて連絡いたします。



うに缶ジュースや缶コーヒーのない時代には、水道の水が唯一の湯きをつたす泉であった。

秋の大会に向けての猛練習、その甲斐もなく負けた時の口惜し涙、作戦が効を奏して勝った後の清らかな涙、それらは多感少女にとつて素晴らしい青春であり、体験で、何年経つても脳裡を去らず、その

仲間とは、同じ目的に向かって行動を共にするからこそ同志と言えるので、バレー部会三十年間の存続もその辺に因があるように思う。

わたしはもう一つの仲間を持っている。それは長年続いている短歌であり、同じ道にいそいそ仲間が大勢いる。三十一首に凝縮させている詩型は中々むづかしい。思つてよ

## 私の音楽人生のスタートは 久居兵舎あとの音楽室

藤堂 宣子 (昭和24年卒)



新制高校が発足した昭和二十三年に私は三重桜の乙女たちは、学校備品(私はグラブピアノ)と共に小型トラックにのって久居の兵舎あつた。すばらしい津中の男性のもとに泣きながらお嫁入りをしたのだ。『あつ』という間にクラス発表があり男女共学がはじまった。学力の面、勉強

兼ねているから、相手への理解も深く、仲間の意識の濃いのも当然である。

どの道も究める程奥が深い。深いからこそ、やばいの数知らぬの中をゆく同行者が必要である。お遍路さんは同行二人の言葉をか

音楽の勉強をした。音楽の先生になりたかった。何故なら二人一人が自分ない個性をもっていて、その魅力はとて素晴らしい。そのユニークな仲間こそ、わが人生の先達である。

## 女性の社会参加に想う

中山 隆子 (昭和16年卒)



「女の道を修めつつ、女の志をつとめつつ」いつ口ずさんでも懐かしさが心にしみる校歌です。でも、「女の道」とは何だったのだらうかと、「この道」を、今思ふことがあります。「我が背子は物な思ひを事しあらば火にも水にも

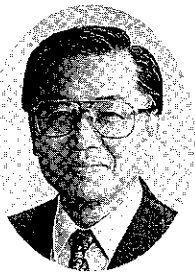
我なげなく(火の中の水の中で私はあなたと共に歩きます)これは修身の時間に高畑校長先生から教えられた万葉集のうたです。戦争が始まる。『男子の後を雄々しく』(戦後に励む)『愛国の花』にも歌われ、雄々しく、凛々しく求められるものになりました。戦後は、今までの『男女平等』に似たりかえられ、当時に学んだ人達とまじりて興奮は大変なものであったらうと思ひます。そして現在、男女共学、女性の社会参加の時代となりました。

この事は喜ばしい事ですが、男女が並んで歩いて行くためには、今までより広い視野を持ち、自分という責任をしっかりと持たなければなりません。それには大変な努力が必要と思つたのです。そのためには、幼児の頃から、責任のあるやさしい強さの教育が必要なのではないでしょうか。近頃、一部のフェミニズムの人の中には、社会に出て働きの社会参加であつて、子育てはしなくても経済力さえあれば老後は安心という声があるようです。老後のケアに必要なのは若い人の力であり、また、若

い人が少なくなるとは、国を支えていく人が少なくなるといふことになりま。その事を考えると子育て、子供の教育という事は、立派に社会的な生き方をしていることになると思つたのです。私の経てきた道の中にも、仕事と子育ての両立は大変さびしく、時には辛いこともありましたが、夫や家族そして回りの多くの人達に力を添えていただきながら、一方で、心の底に残る高畑先生の誇りと気品自律の精神の教えに支えられて、やり通してこられたのだと思ひます。

# 「らしからぬ」

## 近藤 康 雄 (昭和26年卒)



一六二二年に、全国総合開発計画がスタートしました。今は第四次の全総計画進行中なのですが、一貫したモチーフは、日本列島における過密過疎の解消にあったと思います。そのために、国は新産業都市を設けたり、定住圏構想を持ったりしましたが、その目的は必ずしも達成されていません。その中で、地方は各々が地方の時代を夢見つつ汗をかいたのですが、中



央省庁がぐちゃぐちゃな予算と許可権の中で「自治」ならぬ「官治」といったありさまで、喘いでいるのが現状なのです。

# 「らしく」

でも、それだからこそ難しい環境を覚悟して市政を担当する気持ちになりました。皆様の支援により市長に就任して三ヶ月がたち

ました。さて、我が街、津市の課題ですが、市民の方に活性化構想をお話ししたところ、「今のままで結構快適なのに、どうして無理をしようとするの?」との意見を頂きました。その意見を持つ女性に私に開発指向に満ちた地方政治家臭を感じられたのかも知れません。しかし、その方にもシムムな行政水準の確保は理解していただけたと思います。下水道の普及率は、恥ずかしながら平成五年度末

「無いものねだり」の体質で「自然はそのまま」「負担は嫌です」と主張だけなら仕方ないと思ってしまうのですが、市民の皆さんから寄せられた声は、そのような無責任なものではありませんでした。その声に励まされ、私は生き生きとした津市を目指そうとしています。一九九三年四月から地方拠点都市法が施行されました。自治、建設、通産など六省庁が中心となって地方の活性化を促進しようという構想です。当市も地域指定を受

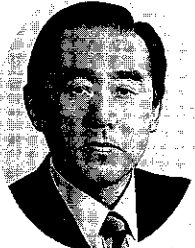
けました。そしてこのチャンスは是非でも成功させなければならぬと思っております。今までの温めてきたプロジェクトの数を単に企画書をロッカーに並べるのではなくて具体化の発射台に乗せたいと発破をかけるのです。そのプロジェクトは中勢北部サイエンスシティ構想です。(産業、流通、住宅等複合機能を持つ先端都市づくりで、第一期事業区域約一七二ヘクタール、津市と河芸町が取り組む事業) 通産省もパートナーであり、県も大きな支援を約

になりました。そしてこのチャンスは是非でも成功させなければならぬと思っております。今までの温めてきたプロジェクトの数を単に企画書をロッカーに並べるのではなくて具体化の発射台に乗せたいと発破をかけるのです。そのプロジェクトは中勢北部サイエンスシティ構想です。(産業、流通、住宅等複合機能を持つ先端都市づくりで、第一期事業区域約一七二ヘクタール、津市と河芸町が取り組む事業) 通産省もパートナーであり、県も大きな支援を約

になりました。そしてこのチャンスは是非でも成功させなければならぬと思っております。今までの温めてきたプロジェクトの数を単に企画書をロッカーに並べるのではなくて具体化の発射台に乗せたいと発破をかけるのです。そのプロジェクトは中勢北部サイエンスシティ構想です。(産業、流通、住宅等複合機能を持つ先端都市づくりで、第一期事業区域約一七二ヘクタール、津市と河芸町が取り組む事業) 通産省もパートナーであり、県も大きな支援を約

# 苦難の過去こそ私の財産

## 乙部 一 巳 (昭和27年卒)



太平洋戦争が起り、小学生時代を一層暗いものにしていったのであった。

戦勝ムードも東の空、空襲空襲の毎日、爆弾や、焼夷弾の降る中を逃げ廻り、今日は生き延びたものの、明日はどうか、死の恐怖との日々であった。

そんな中でも先生方は、心から金生徒を我が子のように可愛がり、空襲の合間には、勉強にも力を注いでくださった。極限に近い状況の中で、人間愛に満ちた教師であり、父、母のような存在であった。

運動場は陸軍軍用となり、時間を削いで、農家で奉仕、松の根の掘り出し(松根油を取り出すため)作業には、体より大きい鎌や

スコップを担ぎ、高野尾村(現津市高野尾町)へ片道六キロメートルの砂利道を通ったのであった。戦争に勝つために、子供心にも真剣な気持ちで、黙々と重労働に堪えていたのである。

当然のことながら、食糧事情も悪く、栄養失調がひどく、骨皮筋石エ門(ほねかわすじえもん)という言葉が流行ったのを覚えて

いる。こんな戦中生活であったが、小学校六年生の夏、即ち、昭和二十年八月十五日、戦争は終わった。油

昭和八年生れの私は、昭和十二年七月七日の日支事変勃発後の五ヶ月が経った十二月十二日、南京攻略戦で父を失った。七発の敵の機関銃弾を全身に受け、戦死したのである。

その時、満四才であった私は、父の顔は知らない。昭和十五年四月、わが国は戦争一色へと進んでいた時、小学校の入学を迎えた。

昭和十六年十二月八日には、

悪く、玉音放送(天皇が直接録音した声での放送)も、小学校六年生の私には、その意味も判らず、大人の話から、戦争は日本が負けて終ったことを知り、悔し涙が頬を流るるに流れたのを、はっきりと覚えて

しかし、一方では、今夜から空襲で死ぬことはない。夜も安心して寝ることができた。ただ、戦勝国であるアメリカ軍をはじめ、連合軍が何時、日本本土に上陸してくるのだろうか。その時、自分達は殺されるかも知れない。ましてや私は軍人の子であり、母は、軍人の妻であったのだから……そんな恐怖心が次に起ってきた。母は覚悟ができていたのかのようであった。

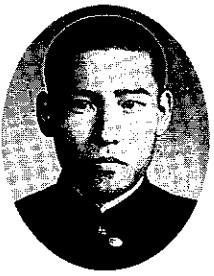
自分には殺されても、私だけは何とか助けようと思いついた。しかし、その心配はなかった。進駐軍に危害を加えられることもなく、シブからお菓子を受け取

たえてくれることもあった。見たこともないお菓子に、子供達は群がったものである。(三重県会議長

若き日の苦難に感謝しつつ……)

# 「津駅で思うこと」

## 青 笹 登 建 (昭和29年卒)



「津駅」に降りたのは父の転勤で引越した昭和二十七年の夏のこと。その静けさに寂寥とした気分が込みました。駅の賑わいでその街を評価するのは是としないもの、駅を利用する人員により

「津駅」に降りたのは父の転勤で引越した昭和二十七年の夏のこと。その静けさに寂寥とした気分が込みました。駅の賑わいでその街を評価するのは是としないもの、駅を利用する人員により

近鉄「津駅」は、昭和初期に前身の参宮急行電鉄が国鉄から駅構内貨物線の最外線を譲り受けて営業を始めて三十九年、乗降機能だけで国鉄改札口を共用する駅でした。昭和三十九年県庁が現在地に

移築された際、駅西側にはじめて自前の駅舎と改札口を開設しました。津市においてもこれに続き、西の区画整理事業を施行、駅前広場と周辺道路を新設、整備されました。昭和四十八年民衆駅に

なり得なかったというので、これが四日市市等と比べ駅方向への商業・業務機能の集積を遅らせた一因と思えます。要するに駅に求心力がなかったのです。

鉄道に身を投じた頃から駅をみる。これまでもいろいろかといえは車両や電線等のインフラ機能の充実が力点が置かれ、駅の改良は混雑緩和、老朽取替といった輸送のフロントサービスの維持改善を動機とする例が主でした。歴史的にも吾国では鉄道技術の開発を優先し一部のターミナルを除いて欧米に見られる大空間建築が発展しなかったことも事実です。

しかし、今から百六十年前の英国に始まった鉄道発祥期に、鉄道を備える事業として資本家が競って建てた機能を軽視した大型駅舎が宮殿を思わせる豪華な建物を、旅客の原形として比較されることも合理主義・近代主義の時代ではつらいことです。

近鉄「津駅」は、昭和初期に前身の参宮急行電鉄が国鉄から駅構内貨物線の最外線を譲り受けて営業を始めて三十九年、乗降機能だけで国鉄改札口を共用する駅でした。昭和三十九年県庁が現在地に

になり得なかったというので、これが四日市市等と比べ駅方向への商業・業務機能の集積を遅らせた一因と思えます。要するに駅に求心力がなかったのです。

鉄道に身を投じた頃から駅をみる。これまでもいろいろかといえは車両や電線等のインフラ機能の充実が力点が置かれ、駅の改良は混雑緩和、老朽取替といった輸送のフロントサービスの維持改善を動機とする例が主でした。歴史的にも吾国では鉄道技術の開発を優先し一部のターミナルを除いて欧米に見られる大空間建築が発展しなかったことも事実です。

しかし、今から百六十年前の英国に始まった鉄道発祥期に、鉄道を備える事業として資本家が競って建てた機能を軽視した大型駅舎が宮殿を思わせる豪華な建物を、旅客の原形として比較されることも合理主義・近代主義の時代ではつらいことです。

近鉄「津駅」は、昭和初期に前身の参宮急行電鉄が国鉄から駅構内貨物線の最外線を譲り受けて営業を始めて三十九年、乗降機能だけで国鉄改札口を共用する駅でした。昭和三十九年県庁が現在地に

になり得なかったというので、これが四日市市等と比べ駅方向への商業・業務機能の集積を遅らせた一因と思えます。要するに駅に求心力がなかったのです。

# 宇宙開発と人類

## （平成六年津高同窓パーティー講演要旨）

原 宣 一（昭和36年卒）



現代の人類が開発の対象として  
いる宇宙は地球に近いところに限  
られていて、宇宙はほとんどどこ  
か見てみると、まず高所であるか  
ら地球観測に便利で、大気に邪魔  
されないから天体観測に適してい  
る。真空であることは動く物体に  
抵抗が無いということ、一旦、  
宇宙機が、秒速約7kmの速度を得  
ると何時までも地球を回っていら  
れる。その結果として得られる長  
期間の無重量状態は、人間に取っ  
ては骨が弱くなる等の不都合な面  
もあるが、材料分野の実験等では  
新たな知見をもたらす興味深い環  
境である。宇宙で太陽光線に照射  
される物体は非常に熱くなる反面  
日陰の部分は放射冷却によりどん  
どん冷えてしまう。大気の遮蔽が

無い宇宙放射線と人工的に増加す  
る宇宙デブリは将来においてもそ  
の対策に悩まそうだ。宇宙環境は  
極めて厳しいものであるが、地球  
上に生息するくまびしがこの環境  
に耐えようなのは奇妙なことだ。  
現在、最も華々しい宇宙開発の  
イベントは米国のスペース・シャ  
トルの打ち上げである。しかし、  
チャレンジャーの事故を別にして  
も、シャトルには大きな議論があ  
つた。宇宙ステーション計画の度重  
なる見直し等、アポロ以後の米國  
の宇宙開発計画を停滞させた原因  
の一つでもある。シャトルは当初  
に見込んだ性能には遠く及ばず、  
延いては運航コストの見積もりが  
全く外れてしまった。性能向上の  
努力は続けられているが大幅な運  
航コストの改善は望めない。NA  
SAにとってシャトルの次の大き  
な開発計画である国際宇宙ステ  
ーションは、政治的及び財政的な配  
慮からロシアに大きく依存した開  
発体制に変更され、呼び名も「フ  
リードム」から「アルファ」に変



八月の同窓パーティーに先立ち  
本年一月に開催した四十八年卒同  
窓会（実はネ、本音を吐くと協賛  
集めの目的でありましたが）では、  
二十二年振りに会うことが出来た  
クラスメイトもおり、皆が旧交を  
暖めることができたので、今思え  
ば同窓パーティーを担当したお陰  
であると感じております。  
そして、企画立案に至っては先  
輩にお任せでありましたのに、多々  
ご配慮をいただき、三十六年卒の  
先輩の方々に心より御礼申し上げ  
ます。  
ともあれ、津高の先輩・後輩を  
して同級生の御協力のお陰で同窓  
パーティーが成功しましたことに  
心より御礼申し上げます。

日本ではこれまでのところ概ね  
順調に発展してきているかの如く  
に見える宇宙開発も、世界的には  
伸び悩みの状況である。これまで  
宇宙開発の実用分野で最も成功し  
たのは宇宙通信であるが、この分  
野も地上の光ファイバー網に主役  
の座を奪われかねない。本格的な  
月や火星の探査計画はなかなか予  
算がつかない。宇宙開発を進める  
理由を見失ったかのように見える。  
何故、人類は宇宙開発を進めるの  
であろうか。  
スペースに驚いた米國の宇  
宙開発は、ソ連崩壊まで冷戦構造  
を背景にした国際競争の対象であ  
つた。現在、米國は宇宙開発を進め  
る正当な理由づけとして世界のリー  
ディングを取るとしている。  
日本では宇宙開発の意義を、それま  
で科学的探求の対象、経済社会発  
展の原動力、科学技術発展の牽引  
力、そして、人類の英知と力の結  
集の場だとしていた。今、宇宙開  
発委員会において長期ビジョンが  
改訂され、宇宙開発政策大綱が見  
直されている。宇宙開発は国家間  
の競争の対象として行つたものでは  
なく、真の目的はもっと他にある  
筈である。  
宇宙のスケールでは極めて短い  
が、人類の長い歴史を通してみる  
と人類の行動原理は幸福を追求す  
ることであつた。幸福とは突き詰  
めると、まず人類が使えるエネル  
ギーが増えることであり、それが  
多くても定常状態にあり、また  
して減少に転じている時は幸福で  
ない。有限な地球上では行き詰ま  
ってしまうから人類の宇宙進出は必  
然という説もかなり説得力がある。  
しかし、エネルギー革命に自信が  
持てるまでは民族大移動のような  
大規模な宇宙進出を考へてはなら  
ぬであらう。宇宙に出るには重方  
ボテンシャルに打ち勝つために大  
きなエネルギーが必要だからであ  
る。  
幸福であるためにはもう一つの  
解がある。それは人類の知識が増  
大したことを知覚することである。  
地球の有限さに縛られないので人  
類はこの幸福を追求すべきである。  
知識は人類が相互にコミュニケー  
ションの手段を確保してから急速  
に増大してきた。片方向ではある  
が未来の人間に通信出来る記録と  
いう手段の寄与が大きい。人間一  
人の脳細胞数は限られているが、  
コミュニケーションにより、人類  
全体の知識は確実に成長している。  
人類がコミュニケーションを行う  
動機は感動である。歴史上の殆ど  
の為政者が芸術に理解を示してき  
てきたのは本能的に感動する心を大事  
にしたからに違いない。  
人類に限らず動物の種の繁栄は  
環境次第である。もし、地球上の  
環境が悪化して人工増加を許すど  
ころが減少も止むを得ない状況に  
陥った場合には、知識の成長をロ  
ボットに託すこともあり得よう。  
現代のコンピュータ関連技術の進  
歩は他の追従を許さぬものがある。  
知識を成長させる「コミュニケーション  
の手段もほとんど新しく考え出  
されている。横軸に年代をとり、  
縦軸に人類の知識を取ったグラフ  
を描いてみると右端で急に立ち上  
がったスキーのような形の曲線に  
なる。これは二十年以上前にロー  
マクラブが世界の人口がこのよう  
な形で急激に増えていることにつ  
いて警告書を發表したことを思い  
出させる。  
人類が成長させ、追及している  
知識とは、結局のところ、宇宙を  
含めた「自然」の理解である。太  
陽が燃え尽きるまでまだ五十億年  
あるといえども、彗星の木星衝突  
に見られるような、地球上の異変  
が近未来に起きるかもしれない。  
時間は無限に与えられている訳で  
はない。人類は怠けてはならない  
が、短気に競争を引き起こすよう  
なことはいけぬ。  
以上の考察から、私は、人類の  
目的は宇宙の寿命内で「自然」に  
迫ることであり、宇宙開発はこの  
人類の目的達成に不可欠の活動だ  
と考えるのである。  
（宇宙開発事業団）



昨年夏、昭和三十六年卒の大  
先輩より召集令状が届き、三十六  
年卒四十八年卒のメンバーが揃っ  
た途端、私が四十八年卒の学年代  
表を拝命してしまいました。一時  
は途方に暮れたもののフタをあけ  
て見れば、四十八年卒の幹事の皆  
様が作業を分担し、三十六年卒の  
先輩の指示のもと全ての担当を完  
遂していただいたお陰で私など非  
常に楽をさせていただきました。  
四十八年卒の皆様は心よりお礼申  
し上げます。

同窓パーティーを  
担当して  
明（昭和48年卒）

# まんが甲子園出場

ジュニア・コム顧問  
岩本知子



今年の夏、津高ジュニア・コム  
は初めての  
の全国大  
会出場を  
はたしま  
した。創  
部三十余  
年にして  
の快挙で  
す。お盆  
の前後に  
新聞、雑  
誌、テレ  
ビを通じ  
て報道さ  
れたので  
ご存知の  
方も多い  
でしょう。  
津高の校歌の作詞者であり、俳  
壇の重鎮であった山口誓子先生が  
平成六年三月二十日逝去された。  
享年九十二才であつた。  
先生は東大入学後、本格的に俳  
句を始め高浜虚子に師事し、昭和  
初期には水原秋桜子等と「ホトト  
ギス」の黄金時代を築かれた。戦  
後まもなく、自ら「天狼」を創刊、  
現代俳句、俳人に多大の影響を与  
えられた。先生は戦中から戦後  
にかけて胸部を患い、三重県（鈴鹿  
市）で長期療養をされたため、  
三重県との繋りは深い。  
私は以前勤めていた会社の社歌  
の作詞をお願いした関係で、永年  
に亙り親しくしていただいたが、  
校歌の作詞をどのような経緯から  
先生に依頼されたかは詳らかは  
ない。  
いつも校長室に掲額されている  
やわらかく味のある筆致の歌詞を  
拝見するたびに、立派な方に校歌  
を作っていたことを心から  
誇りに感じる。  
津高創立百周年記念式典には出  
席され、校庭にたつ「若菜の日の  
心を荒浪に泳ぐ」という句碑の除  
幕をしていただいた。掲額の写真  
はその節吉原前同窓会長とともに  
校庭でのスナップである。  
先生のご冥福を祈つて止まない。



津高校歌の作詞者  
山口誓子先生を偲ぶ  
松岡 晃（昭和18年卒）

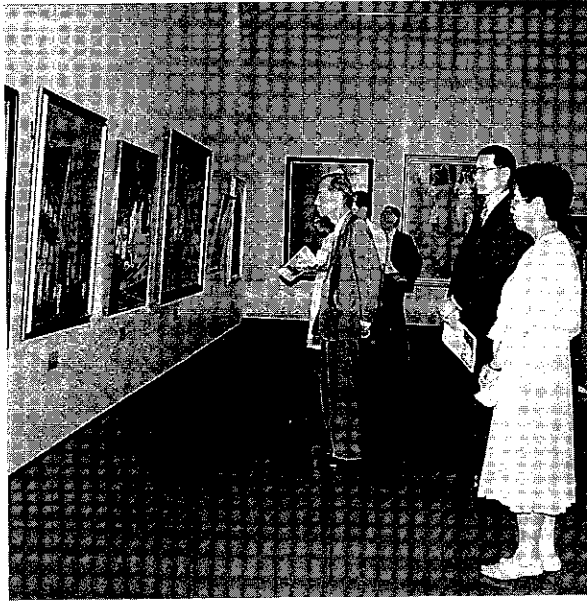
津高同窓会報

# 115周年記念事業決まる

## 第三回美術展開催

第三回津高同窓会美術展を開催致します。この美術フェスティバルは昭和六十一年に津高創立百五年の記念行事として開催されたのが初回であります。同窓生がお互いの作品を通して親睦を深めようではないかという声が高まり、美術展が実現したのですが、質の高い作品が多数出展され、来場者は一千人を超すという期待を上回るすばらしい会でありました。

第三回津高同窓会美術展を開催致します。この美術フェスティバルは昭和六十一年に津高創立百五年の記念行事として開催されたのが初回であります。同窓生がお互いの作品を通して親睦を深めようではないかという声が高まり、美術展が実現したのですが、質の高い作品が多数出展され、来場者は一千人を超すという期待を上回るすばらしい会でありました。



既に一回目の準備会を開き、左記の通り要項を決定致しました。皆様のご協力をお願い致します。

一、期間 平成七年八月二日(火)～八月六日(土)正午まで  
二、場所 三重県立美術館・県民センター

## 古都プラハ・ブダペスト・ウィーンへの旅を企画

ヨーロッパの各地には、さまざまな時代の建築物の多くが今も建てられた当時のままに残され、人々の生活の中に息づいています。建築の歴史は、そのままヨーロッパの歴史を物語っているのです。なかでも、独自の文化を守り育て、美しい中世都市と新しい吐息が印象的な街といえは、プラハ・ブダペスト・ウィーンに代表されるでしょう。この感動あふれる東欧に、津高同窓会の百十五周年を祝って旅行という企画を立てました。

プラハといえは、ブルタバ川に架かるヨーロッパ最古の石橋カレル橋や、十四世紀にカレル四世によって建てられたゴシック様式のプラハ城やボヘミア古城などがあり、中世が美しく保存され、素敵な風景がたゞとあります。

ブダペストでは、中世のドナウ河警備の砦となっていた漁夫の砦を見学します。ドナウ河の眺望が素敵です。また、ドナウ河流域のドナウバンドまで足を伸ばし、ドナウの女王と呼ばれる美しいプラハを満喫します。

ウィーンは、古くから東西交通の要衝として発展し、十九世紀に造られたリンクと呼ばれる環状道路の内側には旧市街が広がり、ゴシック、ロマネスク、バロック様式の荘重な建築物が残り、王朝文化の香りが豊かに古都です。ウィーンの森は周囲八キロもの大きな森で、ウィーン子憩いの場になっています。

それぞれの街の魅力に深く触れる旅「東欧紀行9日間」に、おなたもご参加になりませんか。素晴らしい風景の中に、きっと素敵な自分を見いだせることでしょう。詳しいことは、同窓会事務局までお尋ね下さい。

## 第二回ゴルフコンペへ開催

創立百十五周年を記念して、第二回津高同窓会ゴルフコンペを開催することになりました。

百十五周年記念の第一回ゴルフコンペには百六十名もの方々の参加で、大会を盛り上げていただきました。今回も同窓会員の親睦と交流をほかり、併せて参加者の健康増進をはかることを目的にしたいと思っております。多数の皆様のご参加をお待ちいたしております。

日程 平成七年六月六日(火)  
ゴルフ場 伊勢大蔵ゴルフ倶楽部  
久居市稲葉町一四九七番地  
電話(五五)三一五〇  
FAX(五五)三一四四  
会費 八千円

一、出品資格 津高同窓生及び客員。プロ・アマを問いません。  
二、作品規格 新・旧・未発表関係なし  
三、部門 第一部 絵画 20号×10号  
第二部 彫塑・立体造形 高2m巾2m奥行2m  
第三部 デザイン・工芸 飾り付

一、期間 平成七年八月二日(火)～八月六日(土)正午まで  
二、場所 三重県立美術館・県民センター

一、出品資格 津高同窓生及び客員。プロ・アマを問いません。  
二、作品規格 新・旧・未発表関係なし  
三、部門 第一部 絵画 20号×10号  
第二部 彫塑・立体造形 高2m巾2m奥行2m  
第三部 デザイン・工芸 飾り付

**お問い合わせ お申込み先**

**津高同窓会事務局**

〒514 津市新町三丁目一一一

TEL 〇五九二〇二九七三三三  
FAX 〇五九二〇二九七三三三

## 進路室の窓から

進路指導部長 佐藤 貞夫

進路室は二セアカシアの樹々とともに四季を移ろっていく。芽吹き始める季節です。すっかり緑の衣を着、白い花びらは雪のように散る。今は秋だ。色づいた葉が散り続ける。屋上に散り敷いた葉は排水溝を詰まらせて、この間の台風時には中央廊下を水浸しにした。半月もすればすっかり裸木になって、室内に入りたがる陽光を邪魔しなくなるだろう。

今日は十月十四日。中間テスト第一日で生徒はあまり来室せず静かであるが、センター試験出願開始日なので、進路助手のYさんは点検と発送準備にいつも通りの忙しさ。K先生には県内国立大の願書集めに走ってもらっている。S先生はパソコン相手にデータ整理、と結構忙しい。

在校生のセンター試験出願は、本年度四〇九名となった。例年四百名を越すことはなかったから、大幅な伸びである。全国的に国立大学の人気回復してきているうえ、私立大学でもセンター試験を利用する所が多くなってきているからである。国立大学の人気回復は、大学改革の進捗・入試の軽量化とともに、景気の低迷が影響しているようである。

三年の担任の先生方は今、推薦入試への対応で大わらわ。推薦入試といえは、『徒然草』の「石清水八幡宮参拝に出かけたに途中の末社を拝んだだけで帰ってきた仁和寺の僧」のことを思い出す。

二月の一般入試の前に十月、十一月段階で「未社」を出して入学者を一定数確保しようというやり方である。「青田買い」「ゼロ次入試」との批判もあり、文部省もその是正に努めている。入りたい大

学に入るためには非妥協の道を選ぶべきだ。本校では「第一志望でないかぎり安易にとびつくな」という指導をしているが、生徒は早めの決着を望んで、第一志望でない大学の推薦入試にも出願したのである。

人間に「龍頭蛇尾」型と「大器晩成」型とがあるように、各学年の受験勉強や雰囲気もそのどちらかに特徴づけられるようだ。受験における「龍頭蛇尾」型は、一年時こそ評判が高かったが、その後はいよいよ理想を遂げて結局は入る大学選びに奔走することとなる。「大器晩成」型とは、始めはゆとり構えていて目立たないが、途中からぐんぐん追いついてくるタイプである。

本校は「大器晩成」型の生徒が多く、それが学年全体の傾向となる。ただ惜しむらく、受験生として意識するのが遅く、「大器」の素質を十分に発揮する前に受験日が来てしまう。結果的には「中器」晩成型となってしまう。二年生あたりから受験生としての自覚と意欲が出てきて、早くからがんばって勉強するようになれば「大器」となるのだが、と惜しまれる。

### (平成6年度入試 主要大学合格者数)

	東大	京大	阪大	名大	京大	立命	近畿	龍谷	同志	立命	関西	三重
H6年度	0	5	1	3	1	2	4	10	7	62	4	4
H5年度	4	4	1	2	2	6	7	8	6	75	14	9
H4年度	2	2	2	2	1	7	15	7	2	6	3	3
H3年度	3	3	1	2	3	4	4	10	19	45	6	12

### (平成6年度入試 主要大学合格者数)

	東大	京大	阪大	名大	京大	立命	近畿	龍谷	同志	立命	関西	三重
H6年度	0	5	1	3	1	2	4	10	7	62	4	4
H5年度	4	4	1	2	2	6	7	8	6	75	14	9
H4年度	2	2	2	2	1	7	15	7	2	6	3	3
H3年度	3	3	1	2	3	4	4	10	19	45	6	12

### (平成6年度入試 主要大学合格者数)

	東大	京大	阪大	名大	京大	立命	近畿	龍谷	同志	立命	関西	三重
H6年度	0	5	1	3	1	2	4	10	7	62	4	4
H5年度	4	4	1	2	2	6	7	8	6	75	14	9
H4年度	2	2	2	2	1	7	15	7	2	6	3	3
H3年度	3	3	1	2	3	4	4	10	19	45	6	12

お知らせ

平成七年度 同窓パーティー

日時 平成七年八月五日(土)

午後三時より

場所 津センターパレス(三重会館前) 津都ホテル

担当学年幹事 昭和37年卒(代表 三浦 義秀) 昭和49年卒(代表 西村 修一)

各地で同窓会開催

九州同窓会



今年はおもてなし、アークホテル博多に移し、本部より社長をお迎え

えして、五月十五日午後一時より、第五回津高九州同窓会が開催されました。

九州同窓会設立以来、会長としての運営に、発展に尽力を戴いた、平山正衛氏(昭和16年卒)が同窓会の基礎は固ったとして勇退されました。細川國臣氏(昭和10年卒)を新会長に推挙して、会の一層の発展に努力することになりました。

日・米・欧を駆け廻って活躍をされている、長崎大学医学部教授中根一穂氏(昭和29年卒)より、医学最先端の談話を承り、質疑応答が交わされました。

名古屋同窓会



第五回津高名古屋同窓会総会が七月九日(土)に名古屋駅前ホテル

二十一名の小人数で、和気あいあいとした、暖かい、楽しい同窓会でありました。

再会、愉快、そして語らい

平成七年度津高同窓会は昭和三十七年・四十九年の卒業生が担当して、平成七年八月五日(土)に開催を予定しています。

今回はパーティーを主体に考え、同窓会員の皆様が年に一度の再会を、そして、愉快な雰囲気の中で、語らいの場を作り、青春時代にもどって大いに楽しんでいただくことを鋭意努力し、企画いたしましたので、ぜひご期待ください。

会場につきましてはセンターパレスホールだけでは手狭なため、都ホテルと通路をつなぎ、広いスペースを作りますので、今までの込み合った状態も解消し、ゆったりとした気分を過ごしていただけるのではないかと考えております。

来年は一味違った同窓会にと、我々年度幹事知恵を絞って、楽しいパーティーを企画いたしますので例年よりも多数の皆様のご参加をお待ちいたしております。

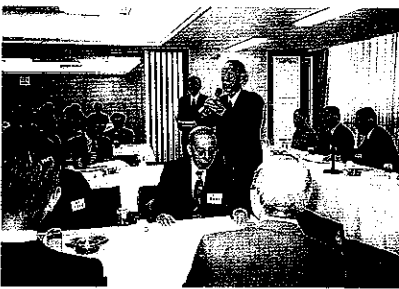
コーナを設けますので、それぞれの学年で、それぞれのクラブで楽しい語らいの場を広げ、旧交をあたためただければと思っております。

京都同窓会

平安建都二〇〇年本番の京都まつりが賑々しく秋雨のなかで行われたが、交通混雑等で、迷惑をかけることもなく、本部から社長、竹林副会長をお迎えし、第二十八回同窓会を十一月六日ホテルサンフラワー京都で開催した。

最初に当会の生みの親であり永年会長として本会の発展に尽くされた小西弘さん、幹事としてお世話願った田中好文さんの逝去を報告、全員で黙祷をさされた。

大阪同窓会



平成六年十一月十三日、第二十八回津高大阪同窓会が、阪神アーバン十一階会場において、百七十四名の参加者を得て、盛大に開催されました。

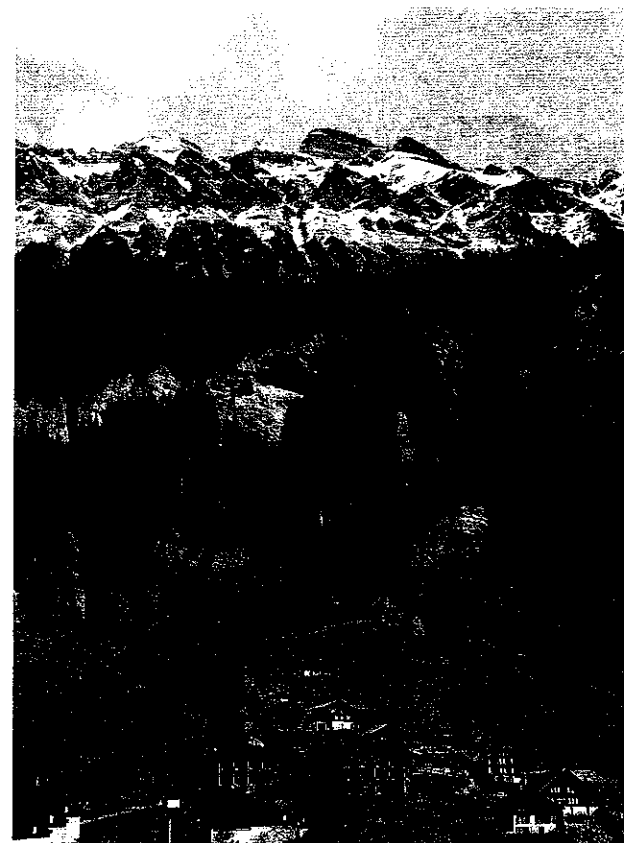
来賓として、本部から社長、徳田、鳥羽副会長、井坂校長、さらには恩師池田民也先生、別所秀子先生の御臨席を頂きました。

東京同窓会

十一月二十三日「故郷と青春」をテーマに平成六年度同窓会が霞が関ビルにて行われた。

今年も学生身元を若いエネルギーが会を大いに盛り上げてくれた。本年は役員改選の年であるが、全役員留任、加藤会長の挨拶で今年も故郷から上京した学生約百名が新規会員となり、会員総数四千七百名を超える大組織になった。

来年は十一月十二日に再会を約し閉会いたしました。



シュタウプバッハの滝(スイス)

富島 利男氏(昭和20年卒)



冒頭、物政会員八名の方々に黙祷を献じた後、小津会長の挨拶、来賓の御祝詞を頂き、佐野事務局長の会務報告が行われました。

「夕陽の碑」発行 終戦の年、戦時特例により四年生で卒業した津中六十二期生が学生で卒業した津中六十二期生が学

徒勤労働員を中心に、厳しい戦時下の体験をまとめた回想録「夕陽の碑」を発刊しました。

「報告」 卒業二十五周年の集い 八月十二日、昭和四十四年卒の同窓生が、卒業二十五周年を記念して同窓会を開催、翌日は有志によるゴルフコンペを行なった。尚正門左に「ペゴニアマロニエ」の記念植樹を行なった。

編集後記 会報委員十一人が、九月から六回に亘り、原稿依頼、レイアウト、校正等を重ね、このほど会報第三十二号が皆様のお手元に届く運びとなりました。発行部数は三万部です。